

歌劇《デモフォオンテ》比較
(神戸モーツァルト研究会 第207回例会)

野口秀夫

前回例会でモーツァルトの《デモフォオンテ》を聴いたあと、ミスリヴェチェク、ヨンメリ、シュスターの録音を入手したので、今回は演奏比較を試みたい。

1. ヨーゼフ・ミスリヴェチェク (1769年作曲) 歌劇《デモフォオンテ》序曲

ミチガワ指揮、ルフェオ・バロックオーケストラ (CPO 777 050-2)

1770年12月22日にモーツァルトはミラーノから姉宛に(レーオポルトの手紙の追伸として)「ザルツブルクでこのミスリヴェチェクのシンフォニアをお持ちかどうかおたずねします。もしお持ちでなければ、ぼくらが持ち帰りましょう」と書き、冒頭4小節のメロディを載せている。この曲は書簡全集やザスローの『モーツァルトの交響曲』ではどの曲か不明とされてきたが、1980年代にゲルハルト・アッロゲンによりミスリヴェチェクの《デモフォオンテ》の序曲であると判明したものである (Daniel F. Freeman: Josef Myslivecek and Mozart's piano sonatas K.309(284b) and 311(284c) in MJB 1995, p.98 n.9)。

なお、シュスターの《デモフォオンテ》序曲は紛失している。

2. ティマンテのレチタティーヴォ「私はなんと不幸なのだ」(第3幕 第4場)

(1) ニッコロ・ヨンメリ (1764年作曲) 歌劇《デモフォオンテ》から

マティナ・ホルスト(メゾソプラノ)、フリーダ・ヘルニウス指揮、シュトゥットガルト・バロックオーケストラ
(1996年シュトゥットガルト音楽祭)

(2) ヨーゼフ・シュスター (1776年作曲) 歌劇《デモフォオンテ》から

イルカ・ヴァシンスキ(ソプラノ)、ルジャレミ指揮、ラ・チャコナ (DHM 74321 98282-2)

(3) モーツァルト (1770年作曲) 演奏会用レチタティーヴォ K.77(73e)

ディートマティス(ソプラノ)、レホルト・ハーガ-指揮、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団 (SMZ 168)

Misero me!

私はなんて不幸なのだ!

Qual gelido torrente mi ruina sul cor!

なんと冷たい奔流が私の心になだれうつことか!

Qual nero aspetto prende la sorte mia!

なんと不吉な有様を私の運命は示しているのか!

Tante sventure comprendo alfin; perseguitava il cielo un vietato imeneo.

あまりの不運に私はやっと気づいたのだ。天は禁断の婚姻を執拗に迫った。

Le chiome in fronte mi sento sollevar.

私の前髪が逆立つのが分る。

Suocero e padre m'è dunque il re!

私の舅であり父親なのがそれなら王なのか?

Figlio e nipote Olinto!

オリントは息子で甥なのか?

Dircea moglie e germana?

ディルチェーアは妻にして妹なのか?

Ah qual funesta confusion d'opposti nomi è questa.

ああ、これはなんと不吉にも混乱して相反する呼び名が入り混じっているのだ!

Fuggi, fuggi Timante.

逃げるのだ、逃げるのだ、ティマンテよ！

Agli occhi altrui non esporti mai più.

他人の眼にもうけっしてお前を晒すでない。

Ciascuno a ditto ti mostrerà.

誰もがお前を指さすことだろう。

Del genitor cadente tu sarai la vergogna; e quanto, oh dio, si parlerà di te.

お前は老いさらばえた父親の恥となることだろう。そしてどれほど、おお、神よ、お前はみんなに噂されることだろう！

Tracia infelice ecco l'Edipo tuo.

不幸なトラキアよ、これがお前のオイディプスなのだ。

D'Argo e di Tebe le furie in me tu rinnovar vedrai.

アルゴスとテーバイの復讐の女神たちが私の中によみがえるのをお前は見ることだろう。

Ah non t'avessi mai conosciuta Dircea.

ああ、そなたを知らねばよかったのだ、ディルチェーアよ！

Moti del sangue eran quei ch'io credevo violenze d'amor.

血族の愛情を私は信じてしまったのだ、恋の烈しい力なのだ。

Che infausto giorno fu quel che pria ti vidi!

なんと不吉な日だったのだ、そなたに初めて出会ったその日は！

I nostri affetti che orribili memorie saran per noi!

私たちの愛情は私たちになんと恐ろしい思い出となるのだろう！

Che mostruoso oggetto a me stesso io divengo!

なんとというおぞましいものに、私は私自身にとってなるのだろう！

Odio la luce; ogn'aura mi spaventa; al piè tremante parmi che manchi il suol;

私は光を憎む。微風はすべて私をぞっとさせる。震える足許では大地も心許なく私には思われる。

strider mi sento cento folgori intorno e leggo, oh dio, scolpito in ogni sasso il fallo mio.

あたりには雷電が鋭い響きを発している。おお神よ！ 私は読むのだ、いずれの岩にも私の罪状が刻み込まれているのを。(海老澤敏訳)

3. デイルチェーアのARIA「もし、私の悩みのすべてを」(第2幕 第6場)

(1) ニッコロ・ヨンメリ(1764年作曲) 歌劇《デモフォオンテ》から

ペトラ・ホフマン(ソプラノ)、フリーダ・ヘルクス指揮、シュトゥットガルト・バロックオーケストラ

(1996年シュガ・ツェンゲン音楽祭)

(2) ヨーゼフ・シュスター(1776年作曲) 歌劇《デモフォオンテ》から

ドミン・ミルズ(ソプラノ)、ルジャレミ指揮、ラ・チャコナ(DHM 74321 98282-2)

(3) モーツァルト(1770年作曲) 演奏会用ARIA K 83(73p) 初稿

エイト・マティス(ソプラノ)、レーホルト・ルガ-指揮、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団(SMZ 168)

(4) モーツァルト(1770年作曲) 演奏会用ARIA K 83(73p) 装飾稿

ジュリー・カフマン(ソプラノ)、イルク=ペーター・ヴァグレ指揮、ミュンヘン放送管弦楽団(SMZ 172)

Se tutti i mali miei io ti potessi dir, divider ti farei per tenerezza il cor.

もし、私の悩みのすべてをあなたに申し上げることができたら、あなたの心は千々に乱れることでしょう、やさしさゆえに。

In questo amaro passo sì giusto è il mio martir, che se tu fossi un sasso ne piangeresti ancor.

この苦しい事態の中で私が自分の思いに殉じるのはとても正しいことなので、あなた方さえ石のように物に動じないおひとであったにしても、あなたは、それでも、私のことを嘆き悲しんでくださるでしょう。

(海老澤敏訳)